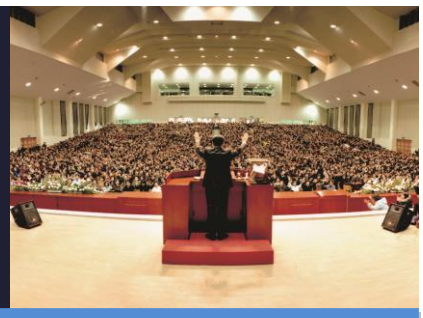
第 2018-05 号

恵みと真理のニュース



2018 年 2 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様が病気になった息子を治療して下さり、神様の御言葉に驚くな治療の権能があることを体験してくださいました

私の家庭は特別に信じる宗教はなかったですが、幼い頃祖母が私の家に来ると机の上に水を入れたお茶碗を置いて拝む姿をよく見ました。ところが、家の近くに教会で礼拝がある日に聞こえてくる鐘の音が私の胸にじんときました。私が高校に入ったとき同じ村に住んでいる執事さんが伝道しました。教会に通うのがとても楽しかったです。その時に歌った讃美歌の曲調と歌詞を今も覚えていてよく歌っています。聖歌隊で奉仕して早天祈り会に参席して私の夢のため祈りました。そして、大学生になりました。
たとえ浪人をしましたが、勉強が上手ではなかった私が大学に進学したのは神様の恵みでした。ところが、大学生になった後、高慢になって神様から離れて信仰生活もおろそかにしました。すると私の事情と状況が非常に大変になりました。しかも、悟らなくて相変わらず世の 風潮に流されて生きました。そんな状況で家族がアンヤン市で引っ越しました。気管支が弱くて季節が変わる時期になると酷く風邪にひいて体の体調が崩れてしまいました。
同じアパートで住む恵みと真理教会の区域長が母と私を伝道しました。病気がちの私のため福音に耳を傾けて心を開きました。1991年の秋に母と私は恵みと真理教会の聖徒になりました。遠く他郷暮らしをして故郷に戻ってきたように私は教会が暖かく感じ心と体が楽でした。何よりも当会長の牧師がくださる説教に大きく恵みを受けました。御言葉に感動されもっと御言葉の恵みを愛するようになって礼拝時間を待ちました。
一番目の子供が小学校に入学すると聖霊に導かれて教会学校で教師として奉仕し始めました。私が神様から受けた恵みと愛を幼い子供と共に分かち合いたかったし、いつも相変わらずにイエス様を信じ愛して生きるように子供達を教え面倒みたかったです。奉仕はやりがいがありました。主日に朝早くから夜遅くまで教会で奉仕して家に帰って来ると肉体的に大変なところもいましたが、子供達を考えると力が出て神様が恵みを与えてくださって楽しく奉仕をすることが出来ました。結婚する前にかかった病気で大変でしたが神様が治療してくださいました。振り返ってみると苦難の時ことに勝つ力を下さり克服するように助けてくださった神様の恵みで平安に主を仕えながら生きて来ました。
そうする中に家の家計が大変でお金が必要になり私も職場生活を始めました。仕事をするようになって主の事を疎かにする状況になり心が楽ではなかったです。神様の子供として区別された人生を生きようと努力しましたが、なかなか自分の思いにならなかったです。したがって心が重くてよく嘆き、自責しました。ところが昨年の春から急に二番目の息子が押しの骨が痛くて大変でした。初めは腰が痛くて痛みがあちこち移動してついにお尻の骨が痛くて座らない状態になりました。あまりにも痛くて学校も休学していろんな病院でレントゲン撮影でも何の異常が発見されなくて続けてリハビリ治療だけ受けました。漢方病院にも行って治療してみましたが、時間が経つほど状態がもっと悪化され歩く時足まで不自由になりました。病院では C.T撮影をしてから大きい病院んに行って精密検査を受けなさいと勧められました。
息子はリンパ癌の診断を受けました。私はとても驚いて涙も出ませんでした。ぼうっとして何の考えもしませんでした。そうして気が付いたらあらゆる否定的な考えをして大きく落胆しました。なぜ私の息子にこんな事が起きたのか？私がどんな罪を犯したのか？できることがあればこの瞬間を逃げたかった心でした。学校に通う時はうつ病で苦痛を与えてくれたのに今は酷い病気にかかった息子をみながら私達の夫婦の人生は苦痛だと思いました。そして、息子が死ぬかもしれないと恐れに陥りました。
一時期はそのように絶望に落ちましたが、またこの考えもしました。"そう、人は誰でも死ぬ。イエス様を信じて仕えながら死ぬと天国に行って良い事だよ。落胆することないよ。もし息子が死ぬとしても受け入れよう。！ところが、心にかかるのがありました。私が神様の前で立つ時を想像しました。さすが"よくできたね。最善を尽くしたね。！と褒められることが出来るのか疑問でした。神様に叱られるようでした。神様を信じながらと言っても大きく落胆していた私の信仰の足りなさと弱さを感じました。親として息子のもっと関心を寄せなかった事や愛を与えなかったことが後悔になりました。罪責感にとらわれながら聖書に出るモルデガイとエステルに関する話が思いだしました。モルでガイが叔父の娘であるエステルを自分の娘のようによく養育して一つの国の王妃にならせえて民族を危機から救う素晴らしい事をした話が思いだしてダメ息が出ました。モルデガイに比べると私はとても足りなくてまた悪い親ではないかとしてまた自責しました。その後、否定的な考えをしないように切に祈りながら全能なる神様を仰ぎました。息子の病気が治療され神様に栄光捧げるのを願い神様の慈しみと憐れみを求めました。そして息子が主の事に大きく用いられる子供になるように最善を尽くそうと念を押しました。
病院に入院する前、息子に聖書の御言葉を声を出して話してあげました。イエス様が病気になった者を哀れんでくださり、治してくださった話をしました。また、二人で共に聖書を開いて御言葉を黙想しました。息子と私は続けて涙を流しました。二人で抱き合って泣きながら祈りました。"「命を愛し、／幸せな日々を過ごしたい人は、／舌を制して、悪を言わず、／唇を閉じて、偽りを語らず、悪から遠ざかり、善を行い、／平和を願って、これを追い求めよ。（ペテロの手紙　3：10, 11）いう御言葉を思い出しながら神様に悔い改める祈りを捧げました。息子にも心で許しを求めました。
病院に入院しても暇があると二人で声を出して聖書を読んでまた、読みました。息子に "神様の子供だよ。神様が君を愛しているよ。神様は必ず君を治してくださる。と励ました。息子が1次抗がん治療を受けながら苦痛が酷くて苦しんでいるときはいつもそばで聖書を読みながら信仰を励ました。2週後に息子が病院から退院して家で過ごす間、神様は驚くほど速く息子の健康を回復してくださいました。それで2次と3次の抗がん剤注射を受ける時は1次時と違ってよく頑張って耐えて数日後に退院することが出来ました。
ヤーウェラパの神様を賛美します。私は神様の御言葉に治療する権能があることを体験しています。神様が息子に抗がん治療の副作用もなく、よく飲んで食べて消化もできるようにしてくださいました。今息子は座ることもできるし足を不自由ではなく歩くことが出来ます。まだ抗がん治療は残っていますが、神様が息子と共におられ治療の恵みを与えてくださるのを信じて感謝し祈っています。
息子が神様に近づいて礼拝を捧げ熱心に奉仕をするようになってもっと神様に感謝を捧げます。私と共にして下さり、御言葉を思い出させて教えて下さり、慰めと導いてくださる聖霊様に感謝します。そして息子のため祈ってくださった牧師と伝道師、高等部先生達と区域聖徒にも感謝します。神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。 だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。（ヨハネの手紙一　5：4, 5）
私にとってこの御言葉の意味を骨深く体験し悟らせてくださる神様に感謝捧げ栄光を神様に捧げます。

［信仰コラム］　調和されなければならない二つの欲望

"与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。"
(ルカによる福音書 6:38)

人は二つの相反する欲望を持っています。持とうとする欲望と与えようとする欲望です。二つの欲望の中で片方がいかにも大きくて強いと弊害をもたらしかねません。望ましい状態は持とうとする欲望と与えようとする欲望の大きさが調和を成す時です。聖書には"求めよ"という御言葉と"与えよ"という御言葉が全て強調されています。
私達は多く持とうとする欲望を持って努力し、神様に求めなければなりません。神様がこのような態度を奨励なさいます。
天地創造に関する聖書の記録を見ると神様は人々が所有欲求を充足することができるように万物お造りなさいました。神様がアブラハムを選択なさってお呼び"あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。"と言われました。アブラハムはたくさんの所有物を持つために努力し、神様が福を与えてくださいました。アブラハムに肉畜と金銀が豊かだったと聖書に記録されています。イサクとヤコブそしてヨセフも同じでした。神様は彼の子が神様に向いて大きく期待して多くのことを要求するのを願われます。使徒パウロは自足する秘訣を学んだとしました。細やかなことを持っても感謝できるのがパウロが会得した自足の秘訣です。しかし、聖徒達は自足する以上により発展して向上し、前進しようとする意欲を持つべきです。常に目標を上向調整して自分の惰弱と不足を認識しながら神様の助けを求めなければなりません。大きく期待して渇望する心になると懇切にお祈りして叫んでお祈りするようになります。
神様は救われた民に全て良いことを豊かに与えられることを喜ばれます。口を広くあけるのは私達がすべきのことで満されるのは神様がなさることであります。私達がすべきことをすると神様がしてくださることは神様が全て行ってくださいます。
私達は神様に多く捧げて他人のため与えることに励まなければなりません。神様がこのような態度を奨励なさいます。
イエス様が"与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。"と言われました。広野でパンと魚をイエス様に捧げた子供とアンデレはこの御言葉を実際に体験しました。
新約聖書のコリント人への第二の手紙で私達は捧げて、分けて与えることに励んだコリント教会によって貴重な真理の御言葉を受けました。"わたしの考えはこうである。少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。"と記録されています。神様は楽しい心で捧げる聖徒を愛されます。そして常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませてくださいます。
持とうとする欲望と与えようとする欲望は生活の活力であります。ただ、私達がこのような欲望が調和するよう調整すべきです。そうするためには私達が持とうとする欲望と与えようとする欲望が神様の御言葉と聖霊様の治めと導きを受けるようにしなければなりません。信仰生活の深さと発展は神様から受けるのを願う心と神様に与えようとする心の熱烈と懇切がどうであるか関連しています。
皆さんは、神様に向いて口を広く開けて求めてください。そして積極的に捧げるのに励んでください。そうして常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざを富んで行うように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

生涯をまとめた記事（1）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には、私たちの生涯を何とまとめることができなければならないかを知られる人が多く登場します。これらの生涯を調べてみると、私の生涯の要約をこのように形容することができれば、もより望むことがないと良い文を見つけることができます。これらを三に分けて見ようとします。今日は、その中である **「彼は神に喜ばれた者だ」**とまとめる生涯について説明します.

聖書に「神を喜ばれた者」と明示されている人がいます。ヘブル人への手紙 11 章 5 節に記録されることを**「 信仰によって， エノク は 死を 見ないように 天に 移された． 神がお移しになったので， 彼は 見えなくなった． 彼が 移される 前に， 神に 喜ばれた者と， あかしされていたからである。」**としました。エノクの生涯に関する記録は分量が非常に少ないが、旧約聖書と新約聖書の両方にあります。創世記 5 章に記録されるのを**「 エノク は 六十五歳になって， メトセラ を 生んだ．エノク は メトセラ を 生んだ 後， 三百年， 神とともに 歩み， 男子と 女子を 生んだ．エノク の 年は 合わせて 三百六十五歳であった．エノク は 神とともに 歩み， 神が 彼を 取られたので， いなくなった．」 創世記 5：21~24**）しました。

ユダの手紙 1 章では、**「 アダム から 七代目にあたる エノク も 彼らについて 預言して 言った， 「見よ， 主は 無數の 聖徒たちを 率いてこられた． それは， すべての 者にさばきを 行うためであり， また， 不信心な 者が， 信仰を 無視して 犯したすべての 不信心なしわざと， さらに， 不信心な 罪人が 主にそむいて 語ったすべての 暴言とを 責めるためである 」（ ユダの手紙 1：14,15**）しました。エノクの言葉は、たとえ八節だが、深遠な教訓と感動が込められています。エノクの生涯の記録を見ると、神様を喜ばせる生活態度が何かを明確に知ることができます。そのポイントは、彼が信仰で神と歩みする生活をしたということです。エノクは、彼の信仰によって、神を喜ばれるという証拠を受けました。神を喜ばれる信仰について具体的な説明が以下の通りです**「信仰がなくては， 神に 喜ばれることはできない． なぜなら， 神に 來る 者は， 神のいますことと， ご 自分を 求める 者に 報いて 下さることとを， 必ず 信じるはずだからである」（ヘブル人への手紙 11：6**）としました。

第一、エノクは神が必ずおられることを信じていました。

神がおられることを信じていない人は無神論者や不可知論者だけを指した言葉ではありません。有神論者も含まれている言葉です。なぜなら、真の神は、唯一の方であるからです。天地を造られた創造主であります。真の神以外はすべてが偽りです。人々が神と呼ぶとしても、実際には存在しないです。人々の観念だけで存在していないので、このような根拠のないものを信じる人は、真の神を知らない者です。

聖書で多くの場所に「真の神」という単語が使用されました

「 しかし 主はまことの 神である． 生きた神であり， 永遠の 王である． その 怒りによって 地は 震いうごき， 万國はその 憤りに 當ることができない． 」（ エレミヤ書 10:10）「 さらに， 神の 子がきて， 眞實なかたを 知る 知力をわたしたちに 授けて 下さったことも， 知っている． そして， わたしたちは， 眞實なかたにおり， 御子 イエス・キリスト におるのである． このかたは 眞實な 神であり， 永遠のいのちである．」（ ヨハネの第一の手紙 5:20）「 わたしたちが， どんなにしてあなたがたの 所にはいって 行ったか， また， あなたがたが， どんなにして 偶報いを 捨てて 神に 立ち 歸り， 生けるまことの 神に 仕えるようになり，そして， 死人の 中からよみがえった 神の 御子， すなわち， わたしたちをきたるべき 怒りから 救い 出して 下さる イエス が， 天から 下ってこられるのを 待つようになったかを， 彼ら 自身が 言いひろめているのである」（ テサロニケ人への第一の手紙 1：9,10）と表現しました。真の神を知らなければ、彼は宗教家であっても、神を知らないという点では、無神論者と相違ありません。神を信じない者です。エノクは真の神がおられることを信じていました。彼はただ一りである神がおられることを信じていました。天地を創造された神様を信じました。アダムに救い主を送られることを明らかにした神を信じていました。アベルのようにあがない 主を送られる神を信じていました。エノスが礼拝した主なる神を信じていました神に近づく行く者は「必ず彼がおられること」を信じなければならないとしました。おられるという単語の動詞は、現在時制です。生きることが大変で苦しむの時さえも、必ず神がおられることを信じていました。痛みがあっても、必ず神様がおられることを信じていました。300 年を子供を生んだ彼は大家族の族長になって、それらを養えて教え、時には裁判官の役割もして忙しく生きました。しかし、必ず神様がおられることを意識して、神とともにして生きて行く楽しいだけでした。神様もエノクの手を握って、導き助けてくださることを楽しいことです。そして、エノクの手を握って、天の国へ導きました。エノクは死を経験する暇もなく、神の手に導かれて、神の国に入りました。 ヘブル人への手紙では、神がエノクを連れて行ってくださった記録について説明を敷衍しています。**「信仰によって， エノク は 死を 見ないように 天に 移された． 神がお移しになったので， 彼は 見えなくなった． 彼が 移される 前に， 神に 喜ばれた 者と， あかしされていたからである」（ヘブル人への手紙 11：5）**しました。エノクはすべてのことで、神の導きと助けを求め、神を頼りました。神は常に一緒におられることを、理論ではなく、実際に感じて楽しんで感謝しながら住んでいました。皆さんもエノクのように、必ず神様がおられることを信じて、神様と一緒に歩みするので、神を喜ばせる生涯が期待するのです。

第二に、エノクは、神が自分を求める者には報いをくださる方であることを信じています。

神が自分を求める者に報いをくださる言葉にはいくつかの意味が含まれています。第一は、神が自分を求める者に深い関心を持って世話をくださるという意味があります。神は神に尋ねて求める人々を愛しておられ、これらの人々に答えられるのが好きれます。聖書には、これを証明する言葉が多く記録された。

「その 時， あなたがたはわたしに 呼ばわり， 來て， わたしに 祈る． わたしはあなたがたの 祈を 聞く．あなたがたはわたしを 尋ね 求めて わたしに 会う もしあなたがたが 一心にわたしを 尋ね 求めるならば わたしはあなたがたに 會うと 主は 言われる」（ エレミヤ書 29：12,13）神は一人で悩んで努力する者を自立心が強いと報い賛なさらない。神に尋ねて求めなければならないです。これが、神の愛と力と善良さと真実あられるの信じるから始まれるので、神を喜ばれます。したがって、神は自分自身を見つける者を愛し喜んで 会うようにします

第二は、神が自分を求める者に報いをくださる言葉はすべてのことが善で有益になるようになさると意味があります。

あなたはどんな状況でも報いをくださる神を信じなさい。患難を受けても**「 なぜなら， このしばらくの 輕い 患難は おおいて， 永遠の 重い 榮光を， あふれるばかりにわたしたちに 得させるからである」（ コリント人への第二の手紙 4:17）**と言うべきです。悪を善に変えていただいて、すべてが働かせて益になる神を固く信じなさい。そして、忍耐を持って積極的かつ大胆な姿勢で問題を対処してください。第三は、神が自分を求める者には報いをくださるという言葉は、将来、神の国で報いをくださるという意味があります。

イエスは自ら言うのを聖徒たちは、天から受ける報いがあるとしました。 コリント人への第一の手紙 3 章 13 節から 15 節には、**「 それぞれの 仕事は， はっきりとわかってくる． すなわち， かの 日は 火の 中に 現れて， それを 明らかにし， またその 火は， それぞれの 仕事がどんなものであるかを， ためすであろう．もしある 人の 建てた 仕事がそのまま 残れば， その 人は 報酬を 受けるが， その 仕事が 燒けてしまえば， 損失を 被るであろう． しかし 彼自身は， 火の 中をくぐってきた 者のようにではあるが， 救われるであろう」**と記録されています。キリストの裁きの座で聖徒たちが受ける報いの言葉です。ヨハネの黙示録には、聖徒たちが受けることになる冠の言葉が記録されています。そして、**「見よ， わたしはすぐに 來る． 報いを 携えてきて， それぞれのしわざに 應じて 報いよう」（ ヨハネの默示錄 22:12）**と主の言葉が聖書の最後のページを飾っています。ユダの手紙 1 章 14 節、15 節に記録されるのを**「 アダム から 七代目にあたる エノク も 彼らについて 預言して 言った，「見よ， 主は 無數の 聖徒たちを 率いてこられた それは， すべての 者にさばきを 行うためであり， また， 不信心な 者が， 信仰を 無視して 犯したすべての 不信心なしわざと， さらに， 不信心な 罪人が 主にそむいて 語ったすべての 暴言とを 責めるためである 」**しました。エノクは、イエスの再臨と審判に関して予言しました。不信心というのはイエス・キリストを信じない者、真の神を信じていない者をいいます エノクは、このような不信心な者に裁きを警告し、悔い改めを促すことを躊躇していない。エノクが住んでいた時よりも、主の再臨がはるかに差し迫った時代に生きている私たちは、もっと熱情的にイエスキリストの再臨と審判のメッセージを伝える必要があります。エノクは神が喜ばれるのが何なのかを知っていました。預言の言葉を伝えることを知っていました。彼はこの仕事について、神が報いをくださるのを信じて再臨と審判のメッセージを伝えました

エノクはこの世から天に移される前に、**「神を喜ばれる者だ」**と聖書に記録されました。これがエノクの生涯をまとめた言葉です。あなたの生涯のまとめも同様になることを願いします。